

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本年度、以前の理念を見直しし 自分たちの目指す理念「安心して、楽しく生活できるグループホームを目指します。」に変更した。 より一層地域との連携を深めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に 理念を全員で唱和し共有している。又、理念に添ったケアが出来る事を念頭において 入居者の自立支援に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議やボランティア来訪時にお伝えしたり、関連施設やボランティアセンター 地域包括支援センターに季刊紙やパンフレットをお持ちして 地域の方々に理解していただけるよう努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日中は デイサービスの大玄関をグループホームと共用の玄関とし、地域の方が気軽に訪問できるようにし ウェルカムボードの作成により訪問し易いよう配慮している。通勤時、散歩時など挨拶は欠かさず行ない 農作業の合間などに高野敷地内のトイレを解放している。又、農作物の収穫など頻回に持ち寄ってくださる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、盆踊りに入居者職員が参加し、皆さんと楽しい時間を過ごした。町内会に入会し 秋の大祭りなどにも参加している。町内36件訪問し 高野納涼祭へのお誘いをし、10世帯の参加があった。納涼祭後は 農作物を持参して下さる様になった。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区社会福祉協議会へお手伝いの申し出を行ない、要望があればいつでも協力する姿勢を示しているが 今のところ要望が無い。又、町内36軒全世帯を訪問し グループホームを知って頂く事から始めている。講演会には地域の方にも声掛けし参加されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員研修などで外部評価の意義を説明し、理解出来る様指導している。又、職員全員が自己評価を記入する事により更に理解度を深め 改善点が個々の気付きとなって見えてきている。又、前回指摘のあった改善点に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	毎回現況報告を行ない、メンバーより意見を頂いている。行事の内容の検討や 運営上の相談事も広く意見を聴く様になっている。シャンプーリンス、石岐などの個別化、リハビリパンツからショーツへ移行の要望、センター方式の家族共同作業などへの協力もご意見を頂き、実践している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターやボランティアセンターへ季刊紙などを配布し、情報交換を行っている。又、包括支援センターが中心となり 地域のグループホームの連携を図るようなシステム作りを計画中である。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1月17日に権利擁護と成年後見制度の研修会を権利擁護センターより講師を招き開催した。入居者、ご家族にも参加を呼びかけ 多数参加頂き好評を得た。職員には後日レポートを提出してもらい 理解を深めた。又、現在 権利擁護センター利用者がおられるので、システムなどよりスムーズに活用出来る様になった。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修において 身体拘束・虐待防止の研修を行ない職員全員に周知徹底を行った。又、高齢者虐待防止への対応と養護者支援についてのマニュアルを職員の目の届く所に設置している。グループホーム協議会主催の勉強会に職員が出席し、研修報告を職場に持ち帰り、ケアに役立てている。虐待はありません。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず文書を作成し、利用者やご家族が充分理解して頂ける様時間をかけて説明している。又、文書は2部作成し 1部はご家族へお渡ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は定期的に毎月一回一日、その他時間のある時はゆっくりと個別に会話の時間を設定している。職員は常に入所者の声に耳を傾ける姿勢でいる。EVホール前にご意見箱を設置し投函して頂いたり、相談員派遣制度の利用により入居者の思いが届くようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の介護添書により 個別にお知らせしている。(体調、ADL、IADL、買物・医療などの金銭管理、その月の生活の様子など)職員の異動等は運営推進会議の場や季刊紙、EVホール前の掲示板でお知らせしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、月にグループホーム高野への連絡表をお渡ししている。何通か郵送、管理者へ手渡して頂いたがどれも現状に感謝との文面であった。文面はその都度職員に伝えている。家族訪問時には必ず管理者、職員が挨拶し日頃の様子等をお伝えし、その中でご意見等があれば受けている。又、運営推進会議の場で意見交換も行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員カンファや社内研修の場で意見交換を行っている。全員で話し合い、改善出来る事は実施している。職員の気付きなどよい提案は積極的に取り入れている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	年間予定表を年頭に作成し、各担当係の行事や予定などを入れる。各担当が連絡、調整を行ないスムーズにシフトが組まれている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設2年間は職員の移動があったが、過去1年間職員の異動、退職はなく、同じ職員が馴染みの関係を構築出来ている。管理者は職員が働き易く、働き甲斐のある職場を目指して努力している。その結果、今の所、職員の離職に繋がっていない。異動がある場合は、ダメージが起きないように全職員で配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているように努めている	年齢や性別などで排除はしていない。現在 20代～60代まで幅広い年齢層である。個々の職員のスキルアップを目指し、資格取得啓発をしている。今年度は社会福祉主事1名、介護福祉士2名の合格者があった。行政やグループホーム協議会の研修の参加を促している。職員個々の資質や意見が反映される様管理者は気配りをしている。次回は5名が介護福祉士の試験に挑戦する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政やグループホーム協議会の研修参加を促している。毎月の社内研修でも取り上げている。H20年1月に講師を招き、勉強会を開催した。日々の入居者に対する接し方（声掛け、態度、目線）には配慮している。	
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者よりステップアップの指導をし、職員個々が向上心を持ち法人外の機関で勉強している。法人内では講師を招いたり、管理者やケアマネが研修会を開いている。介護や急変時対応に関するテキストの購入や毎月一度夜間2時間の勉強会を行っている。救命救急教室、権利擁護成年後見制度、接遇（ホスピタリティ）研修は外部講師を招いた。	
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より福岡県グループホーム協議会に入会し、地域の同業者との交流の場が増えている。ネットワーク作りも徐々に進んでおり、勉強会も毎月開催され参加している。日々の疑問点等も気軽に相談出来る様になり、運営に反映している。今年の5月 近隣に小規模多機能施設が開設し、入所者職員とも交流している。	
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や各リーダーに直接相談したり 職員同士が互いに悩みや相談が出来る信頼関係や雰囲気作りに努めている。職員より相談、提案があれば直ぐ対応できる事はしている。職員の意見が発言し易い場を設けている。毎月の社内研修前の食事会等で雑談を交え チームワークを養っている。	
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の性格や能力を把握し、更なる能力アップに向けて課題を与える事により 向上心に繋げている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントをとり本人が話し易い雰囲気や環境作りをしている。又、本人より聴けない場合は家族や担当ケアマネ、ソーシャルワーカーより情報を得ている。	
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの電話の問い合わせや見学に来られた時は丁寧に対応し、家族からの訴えや困り事を聴くように努めている。又、家族の感情を表出し易い様な問いかけや雰囲気を作っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の訴えをよく伺い、グループホームでの生活がご本人にふさわしいのを見極め そうでない場合は他のサービスを紹介している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は 職員他入居者の協力により声掛けを多くし、馴染みの品の持込を促し、なるべくその方の入居前の生活ペースに合わせるなどの配慮をしている。又、家族へは定期的に慣れるまで来訪して頂いたり 場合によっては、自宅とグループホームを交互に生活して頂き 徐々に慣れる様になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各入所者に担当制の職員を付けており、その方をしっかりサポートしている。職員が定着している為 馴染みの関係が構築されており世間話が頻りに飛び交い会話も多い。又、その会話の中で職員の学びもあり 教えられる事も多い。レクリエーションにも力を入れているので、皆で何かをする事も多い。個々も大切にしながら 入居者9名と職員が一つになって生活している。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や変化などを細かく連絡し 家族と共に本人を支えている。又、家族交流会や行事の参加を促し 一緒に楽しめる様努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者が穏やかにホームで生活され その様子を目にする事により 次第に家族も優しい眼差し、気持ちで接しておられる。間を取り持つ大事なポジションに職員は位置し、正しい情報の伝達に心掛けている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅より馴染みの品を持参して頂いている。草花なども中庭に搬入し 自宅同様に手入れしている。仏壇や大型家具なども搬入している。又、友人知人の来訪も多い。要望があれば電話連絡もしている。必要な時は 思い出の場所などへもドライブに出掛けている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の申し送り時に個々の日々の状況報告があり 全職員へ伝わるようにしている。その中で問題点があれば 注意深く状況判断し 関係がスムーズに行くよう配慮している。困難事例であれば、職員カンファなどで全員で話し合う。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、他施設入居などで退居された場合は 継続的に伺い その様子を家族へ連絡している。退居された家族が その後訪問して下さるケースもある。電話にて退去後の報告なども家族よりある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと併設しているので、多動・徘徊の方などは協力を得ている。足湯の利用や農作物の共同栽培なども行っている。行事毎の共同開催により 大勢の方とのかかわりを持って頂いている。希望があれば家族に宿泊して頂ける様に配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本年度 学生ボランティアの受入れや 一般のボランティアが定期に来所するようになり 入居者に好評である。消防の避難訓練だけでなく 救命救急教室を開催し、職員の意識の向上に繋がった。救命救急教室は毎年開催予定が決定している。救命救急教室がAED設置に繋がった。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会を通じてのネットワーク作りを行ない、必要が生じた場合は 相談、話し合いの場を持つ準備は出来ている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行政より権利擁護についての出前研修を行ない 包括支援センター職員も参加して頂き意見交換した。運営推進会議メンバーとして 包括支援センター職員との連携が取れている。現在、権利擁護事業利用者がおられ 実際の必要な相談などは権利擁護センターの方にしている。小倉南区のグループホームの集まりを計画して下さっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	4週に1度の往診により 入居者やご家族から安心を頂いている。少しでも異常の見られる時はすぐに受診し 相談し易い関係を築いている。内科、外科、整形外科、歯科、肛門科などの協力医が家族の大きな安心に繋がっている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者が認知症専門医に受診しており 受診時に認知症状や薬に関する質問や相談をしている。又、新たに受診する場合は家族やソーシャルワーカーと連携を図り 不安なく受診できるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算導入により 週1回訪問看護師が来所しており 馴染みの関係が出来ている。日常の健康管理やかかりつけ医への連絡もスムーズになっている。医療的な疑問点や頓服の服用についても相談でき 職員のケア負担の軽減にも繋がっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は様子伺いを頻繁にし、状況把握に努め 医療連携体制加算導入による看護師の協力も得て 早期退院に向けての情報交換をしている。又、退院時は病院にて担当者会議を経て 退院を迎えている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算導入時に 重度化や終末期ケアの指針を家族に説明し、理解を頂いている。状態の変化に伴い 繰り返し話し合いを行ない 各メンバーで方針を共有する。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ 重度化されている方はおられないが ホームの指針に従ってより細かく「出来る事、出来ない事」の見極めのマニュアルを作成するべきだと思う。大まかな決め事はあがる、文書化していないので 今後取り組みたい。		重度化、終末期ケアの細かいマニュアル作り。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	前例が1例ある。事前に 家族、本人とも良く話し合い 色々な意味で気持ち良く転居して頂ける様配慮した。転居先へは十分な情報提供を行ない、質問等にも対応した。転居後も本人を訪ねたり、家族と交流を持ち 精神的なフォローにも努めた。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人一人の意識付けを行ない、その方の尊厳を大切にす様配慮している。記録等は一括保管し 持ち出し禁止や知り得た情報の口外を禁じている。定期的ボランティア参加者にも プライバシー保護の為誓約書を書いて頂いている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	その方の情報、しぐさ、身振り等から速やかに要求を察知する様心掛けている。又、本人に分かり易い手段で丁寧に説明し 自分で決める事が出来る様支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはあるが、常に入居者一人一人のペースに合わせて個別ケアに努めている。その日の希望を口にされる事もあり(外出、買物等)出来るだけ実現出来る様にしている。レクの参加も本人に確認し 自己決定を尊重している。無理強いはしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力を得て 希望があれば馴染みの店へお連れして頂いている。毎日の更衣の際は 自身で衣類を選んで頂き お化粧なども声掛けで行って頂く事もある。外出時や行事の時は普段と違うおしゃれを楽しんで頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考えたり、調理が可能な方には手伝って頂き 共に準備をしている。又、片付けは台所まで食器を運んだり 交替で洗って頂いている。冬場には 干し柿や高菜、白菜などの漬物作りが盛んである。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別レクとして職員と共に買物に行き 好みの物を購入して楽しんでいる。ストックし希望があればその都度お出ししている。ビールを愛飲している方もおられる。10月より 本人の好むシャンプー、リンス、石鹸を購入し個別にカゴに入れ 使用している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して 必要な方には定時誘導し 失敗の無い様に配慮している。日中リハパンから綿パンに移行した方が2名おられ 成功している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	だいたい決まった時間に入浴しているが その日の気分や体調等で個別に入浴して頂いている。ゆっくりとした時間で自分の好みのお風呂グッズで楽しく入って頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員が日中の生活パターンを把握しているため 状況に応じて声掛けなどを行ない ゆっくりと休息して頂いている。昼夜逆転が起きないように 日中は離床を促し 夜間はゆっくり眠れる様支援している。前夜浅眠ぎみの方や臥床が必要な方の為に 日中休息用のベッドを用意している。		
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の生活歴を家族の協力などで知る事により ケアに役立てている。例えば、 職歴に合ったホーム内での活躍の場を設ける。趣味を知る事により レクに役立てる。 性格に合った支援を提供する。又、出来る限り棟外散歩で外気に触れて頂き 買物レク、外食レクなどで個別に対応し 生き生きと生活出来る様支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方は 家族との話し合い、了解の下 4名の方が手持ち金を管理している。買物の際は 財布より支払いをお願いしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は日々の散歩に始まり 畑の手入れ、花壇の手入れ、個別でのその方の目的による外出、買物や 大勢でのドライブ、ピクニックなどかなりの頻度で戸外へ出ている。その日に希望があれば 出掛ける準備はいつでもある。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーション担当職員中心に計画を立てて、芝居見物や博物館見学 ピクニック レストランでの食事などを実施している。今後 水族館なども計画している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状を自筆で送ったり、家族からプレゼントが届いた時など 御礼の電話をかけたりして、声の便りを支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、居室にて会話が楽しく出来る様支援し テラス、中庭でも居心地良く過ごせるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修会を開き 常に職員の意識の中に身体拘束をしないケアを 周知徹底している。現在、身体拘束にあたる事はありません。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	西、東棟の玄関の鍵はかけていない。又、居室などの鍵はありません。常に入居者を見守り、テラス、ベランダ、又 外に出掛ける時は 職員同士声掛けし付き添っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同生活室においての 食事やレクリエーションの声掛けや促しを行ない 個々の生活ペースに合わせた所在確認を行っている。夜間は 転倒事故のない様 2時間おきの巡視、危険を伴う入所者に対しては状態を把握し 巡視回数を増やしたり 近くで待機したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活リハビリ等で 入居者が触れる場合もあり、その時の状態を把握し 安全に使用する事ができ 保管、管理出来る様に工夫している。又、誤飲などの危険性がある為 常に物品の確認をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急救命対応の研修で勉強したり、ヒヤリハットの作成や避難訓練実施などで 役割の確認を職員一人一人が自覚している。行方不明時は 対応マニュアルを作成し全職員が周知徹底をしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地区救急隊の協力により 救命救急教室を開催した。又、今後定期的に実施が決定している。ADEも設置している。医療連携体制加算導入により 看護師との連携、協力、指示を仰いでいる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回(夜間想定を1回)実施している。職員にはマニュアルを作成し 非難ルートを理解し誘導出来る様にしている。地域の担当消防署との連携もとれている。職員用のポケットマニュアルも活用している。毛布、水、食糧などの災害時備蓄も完備している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては 職員間やご家族と普段からよく話し合っており、家族の気持ち等も踏まえたケアを行なっている。起こりうると考えられる事は 全て説明し、理解を得ている。又、対応出来る事は全てしている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを実施し 食事量や排泄のチェックなど、体調管理には万全を記している。ご自分で状態を正確に伝えられない方には 特に配慮している。異変に気付いた職員は 全職員に変化を伝え、情報の共有を図り対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、ホームでどの様な薬の処方がなされているか一覧表を貼り出し 効能などの理解を深めている。担当職員は その方の病歴を含め、服薬 軟膏 外用薬の理解をしている。誤薬防止の為 その方の名前を大きな声で呼称し確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	その方の排便パターンを知り、便秘にならない様 水分チェック、食事量、運動などに注意している。又、便秘がちな方には 毎朝牛乳や野菜ジュースを飲用している。万一 便秘になった場合は 医師処方による服薬を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け 確認を行っている。義歯の洗浄介助、残歯のケア介助、磨き残しのケアなど その方にあったケアを行なっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量摂取して頂ける様 メニューを多様化し工夫し摂取量をチェック表に記入している。口腔の状態や嚥下不良の方に合わせて 一人一人食事形態を変えている。水分はお茶だけでなく 牛乳、ジュース、コーヒー、ポカリスエット(脱水を起こし易い方)など嗜好品でも摂って頂く様にしている。1度に召し上がれない方には 数回に分けて食べて頂いている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し 感染症予防の為 手洗いうがいの励行をしている。ノロウイルスに対しては 夜勤者が毎晩テーブル、イス、手すり、車イス等を除菌している。入居者、職員は手拭タオルの共有をしていない。トイレのタオルは個人別である。ピオシラビングの設置、インフルエンザの予防接種を入居者、職員が受けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が 毎晩日常使用する物に関して消毒をしている。冷蔵庫の中も一週間に一度アルコール消毒を行ない 食材は週毎に使い切る様にしている。又、チェック表の記入も毎日している。職員、入居者の手洗いを励行し タオルの共有はしていない。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホーム玄関前にはウェルカムボードを立て 分かりやすい様、入りやすい雰囲気を作っている。外の玄関には花壇を作って花を植え 温かい雰囲気作りに努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の明るさとの調和を考え ホーム内の照明に注意している。BGMを適度な音量で流し、親しみのある選曲にしている。季節に応じた雰囲気作りを 入居者と共に実行している。各棟にかわら版コーナーを作ったり 行事や日常の写真を多数掲示している。馴染みのある個人用食器や入浴グッズを使用している。くつろげるスペースに椅子を配置している。職員の係の仕事に環境整備があり どの共用空間も清潔に保たれている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスでの散歩、中庭での花栽培、個々に合わせた居場所作りの工夫をしている。くつろげるスペース作りをして 入所者同士が気軽に会話が出来様、見守りと声掛けを行ない 状況に応じて職員が仲間に入りコミュニケーションをとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせる様に配慮している。冷蔵庫や大型家具、仏壇等も持参されている。足りない物は、一緒に買い物などに行き購入している。新聞も個人で契約されたり、携帯電話を持ち込まれた方もおられた。又、壁には入居者や家族の写真を貼り、心が安らぐ様にしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄器を設置し、定期的に換気をしている。各居室やDルーム、風呂場には温度計を設置し、温度差がない様配慮している。又、本人の意向を尊重し、衣服で調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造で、下肢筋力低下の方や転倒のリスクの高い方に配慮されている。又、身体状況により、シルバーカーや歩行器を利用出来る様にしている。手すりは多数設置されている。廊下や共用スペースは広くすっきりとしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日頃から、その方の残存能力を把握し、出来る事はして頂くよう声掛けし、混乱している時はゆっくりと説明し、手順を追って失敗のない様支援している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周囲の緑の中を散歩したり、畑を耕し農作業をして花や野菜が育つのを楽しんでいる。広いベランダでは、花火大会、バーベキュー大会、写生大会、お茶会などを開催している。入居者の方々の日々の日光浴や散歩の場にもなっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム高野は 緑の中に田舎の原風景を五感で感じる事が出来る 恵まれた環境に位置しております。入居者様に安全に安心して楽しく生活して頂ける様 広く、ゆったりとした空間に様々な工夫を行っております。職員手作りの季節や行事のお知らせを始め 小さな談話スペース・高野名物かわら版コーナー・写真鉄道2008・バラエティに富んだレクリエーション・地域の方の指導の下作り上げた畑などは必見です。又、外出の多さには自信があります。個別の買物、外食、ピクニックやドライブなど出来るだけ入所者様の要望には対応しております。

入居者の皆様は 朝、職員の明るく元気な声掛けで一日が始まります。私達が一番心掛けている事は その方らしさを大切にするという事です。笑顔は心身の健康や生活満足度のバロメーターです。沢山の素敵な笑顔を頂ける様 職員一同日々頑張っております。